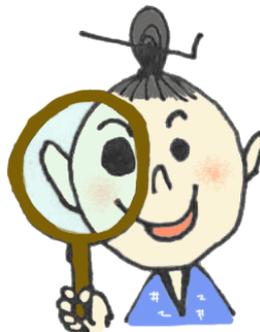


## 知って得する！デジタルアーカイブ活用術

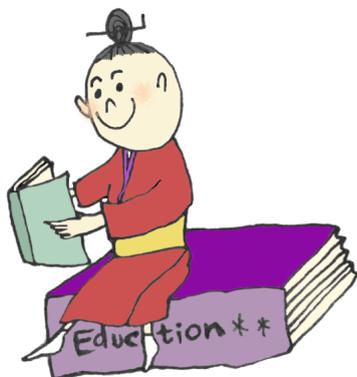
作成日：2016年1月

作成者：法文学部 D1

### 資料(史料)を探す…



高校までの読書感想文や調べ学習とは異なり、大学でのレポートや論文には必ず自分の主張を証明する「根拠」が必要になります。自分のテーマに関する先行研究の見解や、史資料・統計データ、実験結果などの「根拠」を駆使して、自分の論を展開することが大学の研究では何より求められるのです。優れたレポートや論文を書くためには、多くの文献や資料を用いることが必要ですが、限られた時間ですべての文献や資料を閲覧することは、現実的には困難です。例えば、多くの大学では「貴重資料」の閲覧には閲覧時間など制約が付きます。また、県外の図書館や資料館に閲覧したい資料がある場合、頻繁に通うことは大きな負担となってしまいます。



時間を有効に使いながら、効率的に文献や資料を集めるために、今回私がオススメするのが「デジタルアーカイブ」です。資料をデジタル化してインターネット上で公開し、多くの人が資料を共有することを目的とした、この「デジタルアーカイブ」を活用すれば、現地に行かなくても自分のパソコン上で、“生の史料”(原文書)を閲覧することができます。ここでは、私が研究の時によく活用している「デジタルアーカイブ」をいくつか紹介したいと思います。

### デジタルアーカイブとは？

一般的に「図書・出版物、公文書、美術品・博物品・歴史資料等公共的な知的資産をデジタル化し、インターネット上で電子情報として共有・利用できる仕組み」の事を指します<sup>1</sup>。また、この「デジタルアーカイブ」の整備には、次の効果が期待されています。



<sup>1</sup> 総務省「知のデジタルアーカイブに関する研究会開催要綱」(2011年2月)参照。

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01ryutsu02\\_02000041.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01ryutsu02_02000041.html)(最終閲覧日:2016年1月28日)

## 1. 資料の破損・劣化防止

デジタル化することにより、破損を恐れることなく貴重資料を提供できます。原資料を保護するために制限がある複写についても、コンピュータを用いてのプリントアウトにより提供が可能となります。

## 2. 新しい表現の実現

いくつかの資料の映像を部分的に切り出し、再合成することや、様々な解説・音声などを加えることにより、元の資料をより膨らませた形での情報提供ができるようになります。

## 3. 時間的、地理的な制約を超えた資料提供（学習教材・生涯学習へ）

コンピュータを用い、どこからでも貴重資料へアクセスできるようになります。また、同時に多くの利用者に資料を提供でき、各小中学校や自治体による生涯学習への活用が行えます。

## 4. 様々な角度からの資料検索

データベース化により、様々な角度から資料の検索が行えます。それにより、資料を新たな切り口から見る事が可能となります。

「(長野県)上田市デジタルアーカイブポータルサイト」(<http://museum.umic.ueda.nagano.jp/whats.html> 最終閲覧日 2015年11月30日)。

簡単にいえば、全国(世界)各地の図書館や資料館の持つ資料がデジタルアーカイブ化されていれば、インターネットを通じて家のパソコンからでも閲覧することができるという事です。つまり、これを活用することで、より効率よく資料収集を行うことが可能になります。

## オススメの「デジタルアーカイブ」(主に歴史研究関係)

### ・「国立国会図書館デジタルコレクション」(<http://dl.ndl.go.jp/>)



このデータベースでは、国立国会図書館で収集・保存されているデジタル資料を検索・閲覧することができます。本来であれば、東京か大阪の国会図書館まで行って閲覧しなければならない資料を、自分のパソコンから閲覧することができます。

### ・「近代デジタルライブラリー」(<http://kindai.ndl.go.jp/>)



通称「近デジ」とも言われるこのデジタルアーカイブでは、「国立国会図書館デジタルコレクション」のうち、明治期以降の資料でインターネットから利用可能な図書・雑誌のみを検索・閲覧することができます。明治以降の近現代を研究の対象としている人は、こちらを使った方が便利だと思われます。※平成28年にこのアーカイブは上記の国立国会図書館デジタルコレクションに統合されます。

・「東京大学史料編纂所データベース」 (<http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/db.html>)



東京大学史料編纂所所蔵の史資料を中心に作られたデータベースであり、「所蔵史料目録データベース」や「花押カードデータベース」「古文書フルテキストデータベース」などがあります。この中でも、「電子くずし字字典データベース」は、従来の紙の『くずし字用例辞典』等とは異なり、素早く検索できるため古文書を読む際に大変重宝します。

・「**琉球・沖縄関係貴重資料** デジタルアーカイブ (琉球大学附属図書館)」 (<http://manwe.lib.u-ryukyu.ac.jp/d-archive/>)



琉球大学附属図書館所蔵の「貴重資料」の一部を公開しているデジタルアーカイブです。資料の原本をそのまま見るだけでなく、資料によっては「翻刻」「英文」「現代語訳」「解説」なども見ることができるため、古文書の知識が無い人でも容易に利用することができます。

**おわりに**

今回紹介したものの以外にも、分野ごとにまだまだたくさんのデジタルアーカイブがあります。デジタルアーカイブは様々なハンディを埋める画期的な技術であり、例えば琉大図書館のデジタルアーカイブのように古文書の知識が無い人でも容易に“生”の資料を閲覧することができるものもあります。また、そこで閲覧した論文や資料をダウンロードして、自分のパソコンやタブレットに保存しておく非常に便利です。レポートのテーマや素材で困った時は、ぜひ一度デジタルアーカイブを活用してみてください。そこには、皆さんの想像以上にたくさんの資料が眠っていることでしょう。

(※くれぐれも著作権には気を付けてください)



**デジタルアーカイブに関する参考文献**

- ・岡本真、柳与志夫責任編『デジタルアーカイブとは何か—論理と実践』(勉誠出版、2015年)
- ・笠羽晴夫『デジタルアーカイブ—基点・手法・課題—』(水曜社、2010年)
- ・『デジタル・アーカイブ要覧』編集委員会編『デジタル・アーカイブ要覧』(教育評論社、2007年)
- ・中山英明「デジタルアーカイブの利活用」(『パテント』68(10)、2015年10月)
- ・松岡資明『日本の公文書—開かれたアーカイブズが社会システムを支える—』(ポット出版、2010年)